



和歌山市内の中学生の制服がブレザーに？
そりゃみたいだね

ブレザーの方が動きやすかったり洗いやすかったり
様々なメリットがあるよだね

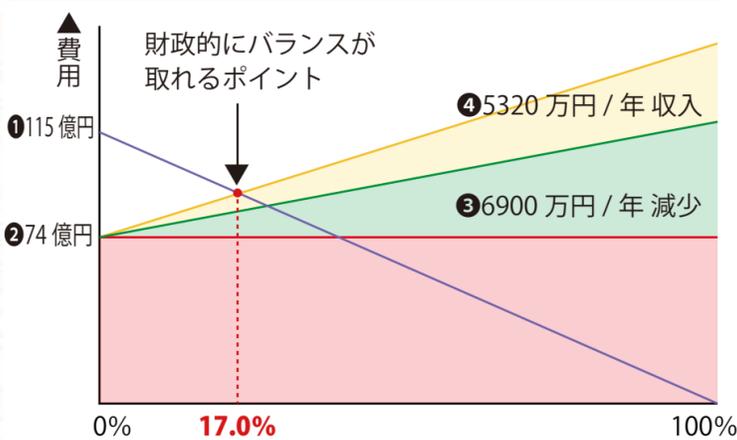
でも従来の学生服やセラー服もいいよね
どちらにもメリットとデメリットはあるからね

要は学生らしさもどう表現するかかな
珍しくいいことあるかな
なんか心当たりある？

和歌山市の公共施設の今後は？ 2026年版

「わかつく」では2016年～2017年にかけて和歌山市の「公共施設マネジメント基本方針」をもとに、また2023年には周辺自治体の公共施設の管理計画をもとに、和歌山市以外の自治体の公共施設の今後のあり方について取り上げてきました。最初に取り上げてから約10年、和歌山市の最新の状況はどうなっているのか、昨年発表された「和歌山市公共施設マネジメント基本方針」の改訂版から読み解きます。

公共施設の縮減と捻出できる費用推計のイメージ図



▼公共施設を築30年で大規模改修、築65年で建て替えるとすると、1年あたり115億円が必要となる試算(上記①の金額)となり、過去5年間に公共施設に投資した金額1年あたり74億円(上記②の金額)を大きく上回る。人口減・税収減が想定されるなか、この水準を今後も継続させるのは極めて困難。

▼公共施設を縮減すると①の金額も減少するため、延床面積に応じて比例的に減らすと仮定(紫色のライン)

▼公共施設を1%縮減すると、維持管理費が年間6900万円減少する(③の金額)ほか、公共施設を1%売却すると年間5320万円の収入が得られる(④の金額)ことから、縮減率が上がると公共施設の更新のために確保できる金額が増える。

▼①の金額を延床面積に応じて比例的に減らすと紫色のラインと、②+③+④で求められるオレンジ色のラインが交差するところが、財政的にバランスが取れる縮減率となる。今回の試算では17.0%となった。

(出典：和歌山市公共施設マネジメント基本方針 2025年3月改訂版)

前提条件は
和歌山市が昨年改訂版を発表した「公共施設マネジメント基本方針」で計算の対象となっている公共施設は▼庁舎や学校、体育館などの「公共建築物」、▼道路、橋梁、上下水道などの「インフラ資産」の2つを指します。2016年に紙面でご紹介した同方針では、①過去5年間の実績に基づき1年あたり79億円を公共施設に投資できる前提とし、②既存施設は築30年で大規模改修を実施③公共施設を縮減した場合、そのスペースを民間に売却する...といった条件で算出したところ、延床面積に換算し約2割の公共施設を縮減すると、財政的にバランスがとれる水準に

なる、としていました。
順調に進んでいる？
今回の改訂版によると、現状の建物保有と、現況の建物保有し続けて、築30年で大規模改修を実施、築65年で建て替える周期とすると、今後30年で3452億円が必要と試算されました。これにより、1年あたりの平均では115億円と

捻出できる額と①を減らしていった額のバランスが取れる点を計算したところ、公共施設の延床面積換算で17.0%の縮減を図ることが求められる、となりました。
この数字は前回示されていた「約20%」を下回っており、改訂版策定までの期間に状況が進展していることがうかがえます。

昨年4月には西コミュニティセンターも閉館したほか、他にもコミュニティセンター開設に向けた準備が進められています。
また、初回の方針策定時と比較し、和歌山市が管理する道路は64キロ延伸、橋梁も69箇所増加、上下水道も合わせて100キロ近く延伸しています。
一方で、老朽化した公営住宅の閉鎖や学校施設の譲渡などにより、2018年3月から5年間で、公共施設は延床面積換算で約6.7%が縮減されています。

今後、施設の縮減や複合化による効率化も順次図られていることがわかります。
今後とも計画は続く
公共施設のなかでも人口増加などに合わせて集中的に建設された学校校舎、公営住宅のほか、市役所本庁舎や支所、連絡所など、和歌山市内には建設から30～40年を超えた施設が少なくありません。こうした建物は優先度合いなども考慮しながら計画的に更新等が進められる計画です。
一方、道路については状況をみながら補修を進めるほか、橋梁については点検結果などをもとに計画的に修繕等が行われることになっています。

また、水道管は地下に埋設されており、目視での点検が困難です。和歌山市も水道管や上下水道に関する施設の更新はあまり進んでいないことを方針内で認めています。水道インフラには処理場など巨額の投資が必要な施設も含まれていることから、計画的に点検や更新を進めることとしています。

「私らしい」と「仕事」を両立する未来へ。わかやま発、**新**キャリア革命。

「趣味や特技の延長」から「地域を支えるキャリア」へ。
女性のスキルを、もっと自由に、軽やかに活かせる街へ。

「今の私にできる範囲で、仕事の時間と収入をコントロールするために起業したい。女性がそういって、世間ではまだ「趣味の延長？」や「ゆとりがあるね」と受け取られがちです。でも、もしこれが男性だったらどうでしょう。「家族との時間を確保し、効率よく稼ぐために、戦略的に独立して働く」。こう言い換えた途端、それは至極まっとうな「キャリア戦略」として、肯定的に響きませんか？

女性が「自分らしく働くこと」を選ぼうとすると、なぜか社会からの役割に縛られ、その決断に制限がかかってしまう。今、和歌山で私たちが向き合っているのは、そんな目に見えない空気感です。

私が「ホッピング」として成し遂げたいのは、このジェンダーギャップの解消です。女性が持つ専門性を地域経済から消さないこと。リスクを負う「超成功者」を目指すのではなく、手持ちの資金でしなやかに人生の満足度を上げていく働き方を、和歌山の当たり前にしたのです。

そのためには、手の届かないカリスマではなく、「ちょっと先を歩く身近なロールモデル」の存在が不可欠です。

そこで私たちは、専門スキルを持つ女性たちが繋がり、共に高め

和歌山市を拠点に、「母親たちの多様性を認め合い「自分らしく生き生きと」社会参画できる地域づくり」をめざすNPO法人ホッピング。活動の現場から「いま」をお届けします。

合う「ホッピング登録ママ講師」® コミュニティを運営しています。ここでは、孤独になりがちな起業やフリーランスという働き方を、知恵とノウハウで支え合うための大切なインフラです。

この誌面を通じて、彼女たちのリアルな姿を発信していきます。女性が自分らしく活躍できる風土こそが、地域の未来を創る力になると信じて。

貫名 茜/キャリアコンサルタント・保育士 キャリアが中断した産後女性の再就職・起業支援を行う NPO 法人ホッピング理事長。和歌山市を「女性が最も働きやすい街」にするべく活動中。

※ 次回は4月中旬掲載予定です

NPO 法人ホッピング
〒640-8020
和歌山市北桶屋町7本町プランテ2F(本町公園内)
<https://hoppingmama.com/>

わかやましあわせえがお キャンペーン

未来の和歌山のために、いま応援しよう **助成先を公募します**

わかやま NPO センターでは 2025 年度から「寄附で応援」「参加で応援」「学んで応援」の3本柱で和歌山県内のNPO・ボランティア団体の活動を応援する「わかやましあわせえがおキャンペーン」を展開しています。このキャンペーンを通じてお預かりした寄附金と、和歌山市内在住の方の遺産を原資に造成した基金からの拠出金を原資に、以下の要領で和歌山県内のNPO・ボランティア団体に助成を実施します。

【対象団体】
以下の条件をすべて満たす団体が対象です。
◆和歌山県内に拠点を置くNPO・ボランティア団体(法人格の有無は問いません)、一般社団法人(非営利徹底型に限りません)
◆応募時点で、活動開始から概ね6カ月以上経過していること

【対象活動】
以下のいずれかとなります。
1) 子ども食堂・地域食堂等、食を通じた地域の居場所の運営事業
2) 1)以外の地域の居場所の運営事業
3) 地域福祉事業(ただし、介護保険や障害福祉サービス事業など公的サービスを除きます)

【助成金額・助成団体数】
3万円を合計8団体に助成します。上記の1)は4団体程度、2)は2団体程度、3)は2団体制度を想定していますが、応募・審査の状況により分野別内訳は前後する可能性があります。

【助成金の使途】
事業は2026年4月～9月の間とします。活動に直接必要な費用に充当されることを原則とします。

【応募締切】
2026年3月4日(水)12時(必着)

【審査・結果の通知・入金について】
わかやま NPO センター内外の関係者で構成する審査委員会が審査します(応募内容によっては追加の質問もしくはヒアリングをさせていただくことがあります)。3月下旬を目処に助成先を決定、採否を通知します。採択された団体に対しては3月末までに助成金を団体指定口座(団体名義の口座に限りません)に振り込みます。

くわしくは本助成金のウェブページをご覧ください(<https://wnc.jp/egao/>)。申請用紙(Wordファイル)や添付書類、応募方法を記載しています。また、本助成金の原資となる資金のご寄附も募集しています(ご寄附は税制優遇の対象となります。ご寄附方法も上記ウェブページをご覧ください)。